

令和 6 年 6 月 16 日現在

機関番号：20101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K10169

研究課題名（和文）男子看護学生の看護技術教育プログラム開発

研究課題名（英文）Development of a nursing skills education program for male nursing students

研究代表者

澁谷 恵子（SHIBUYA, Keiko）

札幌医科大学・保健医療学部・研究生

研究者番号：50438074

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は男子看護学生と女子看護学生の技術習得のプロセスの違いを明らかにし、男子学生の学びの様相に応じた看護技術教育プログラムを開発し、検証することを研究目的とした。看護技術教育プログラム開発の基盤となる情報を得るために、看護教員等を対象に半構成的インタビュー調査を行った。その結果、技術学習の準備性や取り組み、看護実践についての感じ方に性差があることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

看護教育の大学化に伴い、看護師を目指す男子学生が増加する状況において、本研究の成果は看護技術教育プログラムを開発する際に性差を観点とすることの根拠につながると考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the differences in the process of acquiring skills between male and female nursing students, and to develop and verify a nursing skills education program that is suited to the learning aspects of male students. In order to obtain information that will serve as the basis for developing a nursing skills education program, a semi-structured interview survey was conducted targeting nursing instructors. The results suggested that there are gender differences in the readiness and approach to technical learning, and in feelings about nursing practice.

研究分野：看護学

キーワード：男子看護学生 看護技術 技術教育プログラム

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

脳科学の発展に伴い男女の性差によって学習傾向に違いがあることが明らかとなってきた。昨今、看護学生の技術学習修得過程も性差があることが推察できる。看護教育の大学化に伴い、看護師を目指す男子学生が増加している。性差による技術習得過程の違いを明らかにした研究や男子看護学生の技術習得の特性を考慮した技術教育方法がない現状がある。

2. 研究の目的

本研究は男子看護学生と女子看護学生の技術習得のプロセスの違いを明らかにし、男子学生の学びの様相に応じた看護技術教育プログラムを開発し、検証することを研究目的とした。そこで、看護技術教育プログラム開発の基盤となる情報を得るために、看護教員等を対象に半構成的インタビュー調査を行い、事前学習への取り組みや看護の実践状況に関する検討を行った。

3. 研究の方法

1) 研究対象者

教員および臨床指導者計9名

内訳：女性7名 - 大学教員4名・看護大学実習指導教員1名・臨床指導者2名

男性2名 - 大学教員2名

2) 方法

(1) インタビューの時期

2022年5月1日から2023年4月28日までであった。

(2) インタビューの場所

研究対象者が所属している施設にある個室とした。なお、7名は対面、2名はオンラインで実施した。

(3) インタビューの内容

日々の看護技術教育や看護実践場面で感じている困難について

日々の看護技術教育や看護実践場面で感じている困難の男女差について

(4) データ分析

音声データから逐語録を作成し、類似性と相違性に留意して内容を質的に分析した。

(5) 倫理的配慮

東京工科大学倫理委員会の承認を得た。研究協力および辞退は任意とし、参加後に拒否をしても不利益は生じないこと、データ保管と管理を含む個人情報の保護について文書と口頭で説明し、同意を得た。

4. 研究成果

1) 研究対象者の概要

研究対象者の概要を表1に示す。

表1 研究対象者の概要

研究対象者	職種	年代	性別	インタビューの方法	インタビューの所要時間
1	大学教員	60	女性	対面	約60分
2	大学教員	60	女性	オンライン	約60分
3	大学教員	50	女性	対面	約60分
4	大学教員	50	女性	対面	約60分
5	看護大学実習指導教員	50	女性	対面	約60分
6	臨床指導者	50	女性	対面	約60分
7	臨床指導者	40	女性	オンライン	約60分
8	大学教員	30	男性	対面	約60分
9	大学教員	30	男性	対面	約60分

2) 研究対象別の回答の特徴

- (1) 研究対象者1は、男女差はなく、個人の学力差であると回答した。
- (2) 研究対象者2～9の8名は、男子看護学生と女子看護学生の技術学習の準備性や取り組みや実践に性差があると回答が得られた。研究対象者2～9は男子看護学生と女子看護学生の認知領域、精神運動領域の技術習得のプロセスの違いについて戸惑いを感じていた。そして、指導方法について悩みを抱え、指導の工夫の必要性を感じていた。

以上より、男子看護学生の看護技術教育プログラム開発を検討するにあたり、技術学習の実践場面で注目するところに性差があったという研究対象者9名中8名の結果から、今後は男子看護学生と女子看護学生の視線の向き方などに関する資料を得ることが課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Keikoo Shibuya, Hiroko Ota
2. 発表標題 Difficulties in nursing skill education and differences in the difficulties according to students' sex
3. 学会等名 The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023 （国際学会）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	太田 浩子 (Ota Hiroko) (30583934)	純真学園大学・看護学科・准教授 (37128)	
研究分担者	堀口 雅美 (Masami Horiguchi) (10217185)	札幌医科大学・保健医療学部・教授 (20101)	
研究分担者	梅田 勝 (Umeda Masaru) (20725684)	東京工科大学・医療保健学部・名誉教授 (32692)	
研究分担者	横井 美由貴 (Yokoi Miyuki) (50810610)	東京工科大学・医療保健学部・助教 (32692)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	飯塚 敏子 (Iizuka Toshiko) (20827844)	東京工科大学・医療保健学部・助教 (32692)	
研究分担者	小坂 志保 (Kosaka Shiho) (60634665)	東京工科大学・医療保健学部・講師 (32692)	
研究分担者	川村 晴美 (Kawamura Harumi) (60769868)	昭和大学・保健医療学部・兼任講師 (32622)	
研究分担者	安部 美恵子 (Abe Mieko) (60791738)	和洋女子大学・看護学部・講師 (32507)	
研究分担者	小林 里佳 (Kobayashi Rika) (90736563)	東京工科大学・医療保健学部・助教 (32692)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関